

と研究  
デスク  
データ  
オー  
アー

# CADに構造計算ソフト

## 改正建基法対応 9月から提供

オートデスク(東京都中央区)は、アークデータ研究所(東京都荒川区)と協業し、CADと構造計算ソフトの連携を図り、設計から確認申請までの業務を一本化するソリューションを提供する。6月20日に施行された改正建築基準法では申請図書が厳格に審査されるため、図書を作成する補助機能をCADに取り入れることで、設計業務の迅速化を支援する。9月から販売に乗り出す予定だ。

両社が提供するソリューションは、建築構造設計の計画、計算から設計図書作成までをシームレスにつなげる。CADと構造計算ソフトのデータ交換を可能とすることで、これまで個別に進めていた作業を一本化し、大幅な効率化を実現する。設計変更などにも迅速に対応できる。

具体的には、オートデスクの構造設計CAD「Revit Structure」とアークデータ研究所の構造計算ソフト「ASCAL」に、計算結果に基づいて申請に必要な図面作成を行う補助ソフト「adpac k-PRO構造図」を加えた3種類のアプリケーションで構成する。

改正建基法では、確認申請図書の整合性が厳しくチェックされる。申請書類に不備があった場合、再申請となり、着工スケジュールに支障を来す。設計から構造、申請図書作成までが連携する仕組みであれば、意匠設計者と構造設計者のコミュニケーション不足や単純な作図ミスを解消

することができ、結果的に設計作業の効率化にもつながる(オートデスク)という。両社は、データ交換の機能を構造ソフト側に付

加するための開発を急ピッチで進め、9月からソリューションを提供する予定だ。初年度(7カ月)は両社合わせて1億円の販売を見込む。また、アークデータ研究所は、並行して構造計算ソフトの大臣認定に向けた作業を進めるといふ。